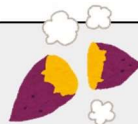


ふくおかの経済

令和7年9月号

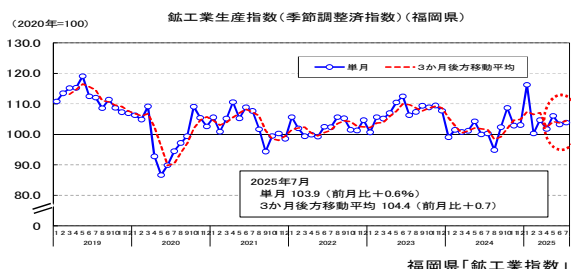


生産

持ち直しの動きがみられる。

7月の生産指数は、汎用・生産用機械工業、窯業・土石製品工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りました。

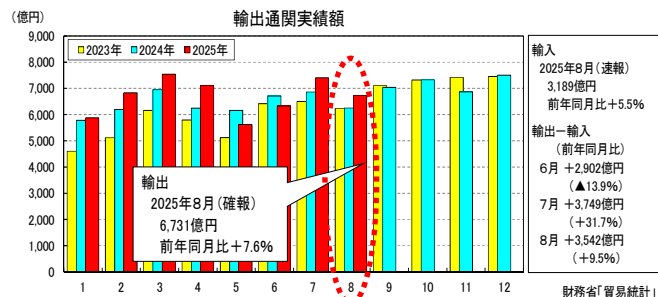
鉱工業生産指数は、2020年の生産水準を100として、その変化を表しています。



貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

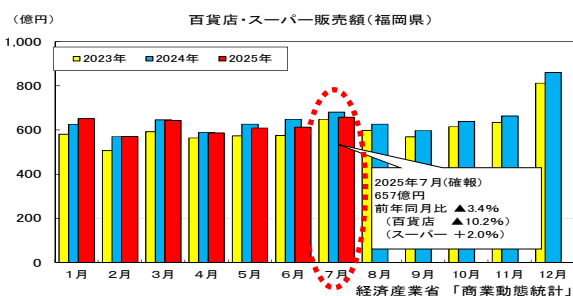
8月の輸出額は前年同月比+7.6%、輸入額は同+5.5%と、いずれも前年同月を上回りました。



消費

物価上昇の影響等により、消費者マインドに弱さがみられるものの、緩やかに回復している。

7月の百貨店・スーパー販売額は、5か月連続で前年同月を下回りました。

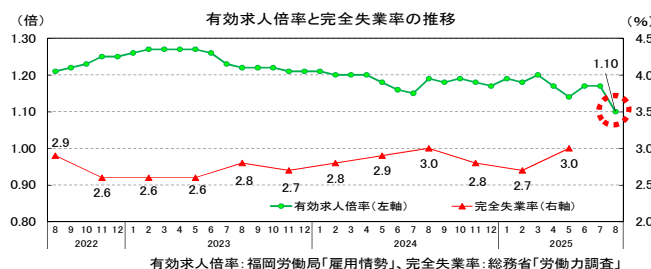


雇用

雇用情勢は、全体として持ち直している。

8月の有効求人倍率は1.10倍で、前月を0.07ポイント下回りました。

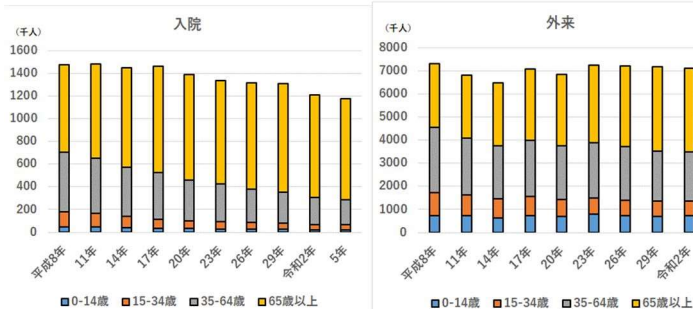
「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。



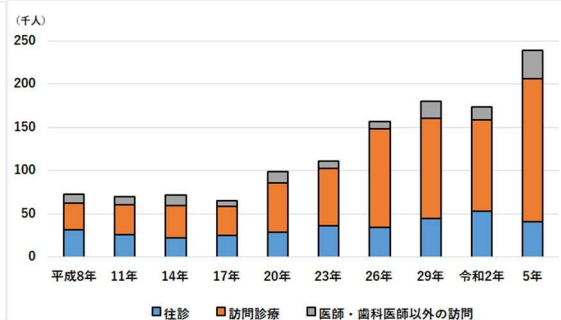
今月のトピック 患者調査について

- 患者調査は、厚生労働省が3年ごとに実施する基幹統計調査です。この調査は、病院及び診療所を利用する患者の属性、入院・来院時の状況、傷病名等の実態を明らかにするとともに、地域別患者数を推計することで、医療行政の基礎資料を得ることを目的としています。
- 直近では令和5年に実施され、推計患者数、受療率*、退院患者の平均在院日数、入院前の場所・退院後の行き先、傷病分類別の総患者数等が公表されています。
*推計患者数を人口10万対であらわした数
- 推計患者数とは、調査日当日に病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数を指します。年齢階級別の入院・外来患者数の推移を見ると、入院では「65歳以上」を除く全ての年齢階級で減少傾向にあり、外来では平成23年以降ほぼ横ばいで推移しています(図表1)。
- さらに、在宅医療を受けた推計外来患者に注目すると、「往診」「訪問診療」「医師・歯科医師以外の訪問」のいずれでも平成8年以降増加傾向となっていることがわかります(図表2)。
- このように、病院完結型の医療から、地域における医療へのシフトが進んでいる様子が伺えます。
- 患者調査では、罹患者数や有病者数といった、医療機関を受診していない患者を含めた数を把握することはできません。しかし、患者数の推移や年齢構成、在宅医療の拡大といった変化を統計的に確認できるため、過去から現在の医療動向を把握し、今後の地域医療のあり方を検討する上で重要な調査の一つです。

図表1 年齢階級別にみた推計患者数の年次推移(全国)



図表2 在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移(全国)



出典: 厚生労働省「患者調査」を基に作成(図表1及び図表2の平成23年は、宮城県石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値を使用)